

馬不出事知藤佐

連合後援会で表明

後継候補擁立が本格化



任期満了に伴い10月9日告示、同26日投票で行われる知事選で、現職の佐藤雄平氏(66)の2期は4日、3選出馬せず、今限りで引退する意思を表明した。同日、福島市で開かれた連合後援会の会合で「全身全霊を込めて取り組んできたが、燃焼し尽くした」と語った。佐藤氏の不出馬表明を受け、民主党県連などは佐藤氏の後継者擁立を本格化させる見通しだ。

佐藤氏に近い関係者によります。佐藤氏は、進退判断の前提とした中間貯蔵施設の建設受け入れを容認して県政最大の課題に一定のめどがついたことや、ふくしま産業復興企業立地補助金など震災後に進めた復興政策の成果が出始めたことなどを踏まえ、出馬しない意思を決めたとみられる。また、同施設をめぐっての搬入経路や安全性の確保などの課題が多い。後援会幹部によると、佐藤氏は会合で「8年間の足跡を分かっている者に託したい」と述べ、復興を軌道に乗せるため県政の継続性が重要との認識を示した。民主県連などの後継擁立をめぐって



佐藤 雄平知事



吉田 孝司氏



五十嵐 義隆氏



熊坂 義裕氏



鉢村 健氏

は、こうした考えが前提になるとみられる。佐藤氏は下郷町出身。神奈川県大経済学部卒。衆院議員秘書を経て1998(平成10)年の参院選で初当選。2期目途中の2006年11月、前知事辞職に伴う知事選に立候補、民主、社民両党などの支援で初当選した。10年の知事選で再選した。知事選をめぐっては、自民党県連が元日銀福島支店長の鉢村健氏(55)福島市への擁立を決めているのはじめ、前若手県宮古市長の熊坂義裕氏(62)同、牧師の五十嵐義隆氏(36)いわき市、医師吉田孝司氏(36)郡山市が立候補を表明している。ただ自民は、党本部が沖繩県知事選や来年の統一地方選をにらみ、佐藤氏や後継候補を軸に相乗りの検討を党県連に促している。党本部、県連の意向が異なることから党内調整が焦点となる。